トーヨー建設グループ

営農型太陽光発電事業を展開

南相馬市に施設整備

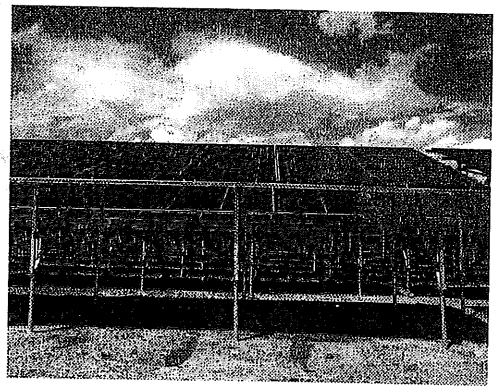
トーヨー建設（東京都葛飾区、岡田吉充社長）は、福島県南相馬市小高区で太陽光発電と農業を一体的に行う大規模ソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）事業に乗りだした。グループのトーヨーエネルギーファームが事業主体となり、18・5㌶の農地を賃借して太陽光発電施設を整備。発電パネル下の空間を活用し、日陰でも育つミョウガを栽培する。敷地を3分割し、このほど第1工区（6・49㌶）の発電施設（発電規模4・2メガワット）が完成した。

賃借した農地での事業期間は20年。現在、第2工区（8・29㌶）と第3工区（3・72㌶）でも事業実施に向けた農地の一時転用許可手続きを進めている。発電規模は第2が4・9メガワット、第3が2・2メガワットで、17年度中に順次完成する予定。施工はトーヨー建設が行う。

事業全体の発電規模は11・3メガワットに上り、農地法の許可を取得した同種事業では国内最大級という。発電した電気は東北電力に全量売電する。

ミョウガの栽培については来夏をめどに出荷を始める予定。年間収穫量は46トンを見込む。

事業地の南相馬市小高区は昨年7月に避難解除となった東京電力福島第1原発の20キロ圏内に位置する。トーヨーグループでは今回の事業を通じて現地での営農を再開し、再生可能エネルギーの導入推進と雇用創出などにより、被災地の復興を後押ししていく。



第1工区に設置された太陽光発電施設。パネル下の空間を利用してミョウガを栽培する